

東日本大震災

宮城県南三陸町での医療活動報告

山口労災病院

看護師 長谷昌枝

平成 23 年 3 月 24 日～27 日の間、山口県医師会チームの一員として、宮城県南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナ内救護所にて医療活動を行いました。移動手段は山口県宇部空港より 9 時 50 分に出発し、羽田空港で借り上げタクシーに乗り換え、その後陸路にて目的地の南三陸町を目指しました。到着したのは 19 時過ぎでした。東北自動車道を走行しているのは殆どが緊急車両登録された車両だったので、渋滞するのはガソリンスタンドで給油の時くらいでしたが、地震の影響で高速道路に多くの段差があり 50km/h のスピード制限されたため、移動に時間がかかったように思います。

初日は到着したのが夜だったこともあり、その日の業務割り当てはなく、翌日の準備や施設内の見学をして過ごしました。1500 人の避難所になっているベイサイドアリーナは今回の地震での損壊がなく活動拠点としては安心感がありました。救援物資も多く見られましたが現場が混乱しており払い出しが間に合わない様子でした。

2 日目は 7 時 30 分より医療班の全体ミーティングで、その日の役割が発表されます。私達は避難所内の救護所に入所している方を担当しました。ベイサイドアリーナ内には 5～6 の医療チームが常駐しており、活動期間中は、内科・精神科・小児科・整形外科のチームがいました。薬剤も十分に行き届いている状態で、検査は簡単な採血やエコー、レントゲンが可能でした。救護所内に入所されている患者数は 14～21 名で、この日まで現地志津川病院のスタッフが休みもなく寝食共にしながら活動しておられた為、疲労もピークを迎えていると感じ、私達は患者だけでなく、スタッフが休養をとり、家族に会えたり、捜したりする時間を作ってもらいたいと思い、引き継ぎを提案しました。震災により病院のカルテはなく、災害用カルテをコピーして使っていましたが、診断もつかず、カルテ作成もまだの方が半数位いたので、まずはじめに行ったことは、現病歴・既往歴、現在服用している薬があるか、残薬はあと何日もちそうかななどの情報収集を行いました。そして診療の介助・検査の介助を行い診断がついた方からカルテを作成していきました。重症化が考えられる患者様については、避難所前に常駐している救急車に搬送依頼しました。

この救護所内におられた方の病名は

心疾患・ICD 植え込み後・HT・DM・高脂血症・肺気腫・気管支喘息・腰痛
膝痛・捻挫・白内障・アミロイドーシス・脳梗塞後遺症・外傷性クモ膜下出血
OP 後・精神疾患・不眠・イレウス・痔・鼻炎・花粉症・咽頭痛・流行性角結膜
炎疑い・咳嗽・HOT 使用中・緊張性頭痛・褥瘡・犬咬傷・妊娠（35 週）

などでした。

また救護所内の配置は避難してきたままの状態だったので、どこに誰がいるのか、どの方が患者様でどの方が付き添っている家族なのか分からない状態でした。事故を起こさないように、また後続のチームに引き継げるように、説明し同意を得ながらベッドネームやベッド No をつけベッドマップを作成しました。大きく要医療、要介助者で分け、フロア内の配置転換を行いました。高齢者や体の不自由な方は床からの立ち上がりが困難なため長椅子を合わせてベッドを作ったり、褥瘡予防のマットを挿入する等して静養出来る環境を整えました。その日の夜からは志津川病院のスタッフに変わり、私達が 3~4 時間の睡眠を交代でとりながら点滴や HOT の管理、日常生活全般の介助を行っていきました。炊き出しの後、食事摂取量の確認を行い、食べられない原因となっていた歯のない方に柔らかい食べ物などを手配し食事の工夫を行いました。夜間はトイレ介助を主に行いました。ポータブルトイレ 1 つを 10 数人で使用する為、トイレ待ちの列が出来るうえ、すぐに溢れそうになり、汚物を捨てる為屋外の決められたところまで運び出さなければならなかったり、普段病院で行っている同じ看護にもひと手間もふた手間もかかるのが被災地での現状であり、当たり前と思っていたことにすごく感謝したい気持ちになりました。

3 日目は群馬と山梨の支援ナースの 3 名が同部署に配置された為、合同 1 チーム体制で、これまで手が回らなかった清潔ケアに重点を置いて活動しました。ここでも清拭をするために水とタオルを確保し、お湯を沸かし、冷める前に清拭して回るわけですが避難所内には仕切りもなく男女の区別もない空間で、個人のプライバシーを確保しつつ行うことはとても難しかったです。時間をかけ、清拭したり、足浴、爪切り、マッサージをしていると被災者の方から感謝の言葉とポツリポツリ被災体験を話し涙を流されていました。かける言葉も思いつかず、一緒に泣いたり、うなずくことしかできませんでした。

この日の夜は群馬・山梨チームにカルテカンファレンスを開き一人一人の詳細な情報を提供しました。

4 日目は 10 時には帰路に向かうため 6 時頃より活動を始め、洗面、ハミガキ、食事の配下膳、処方薬の残数確認、追加処方手続き、PT の方へのリハビリカンファレンスまで行ったところで時間が来ました。

今回の活動を通して、お会いすることはありませんでしたが、被災者の方が

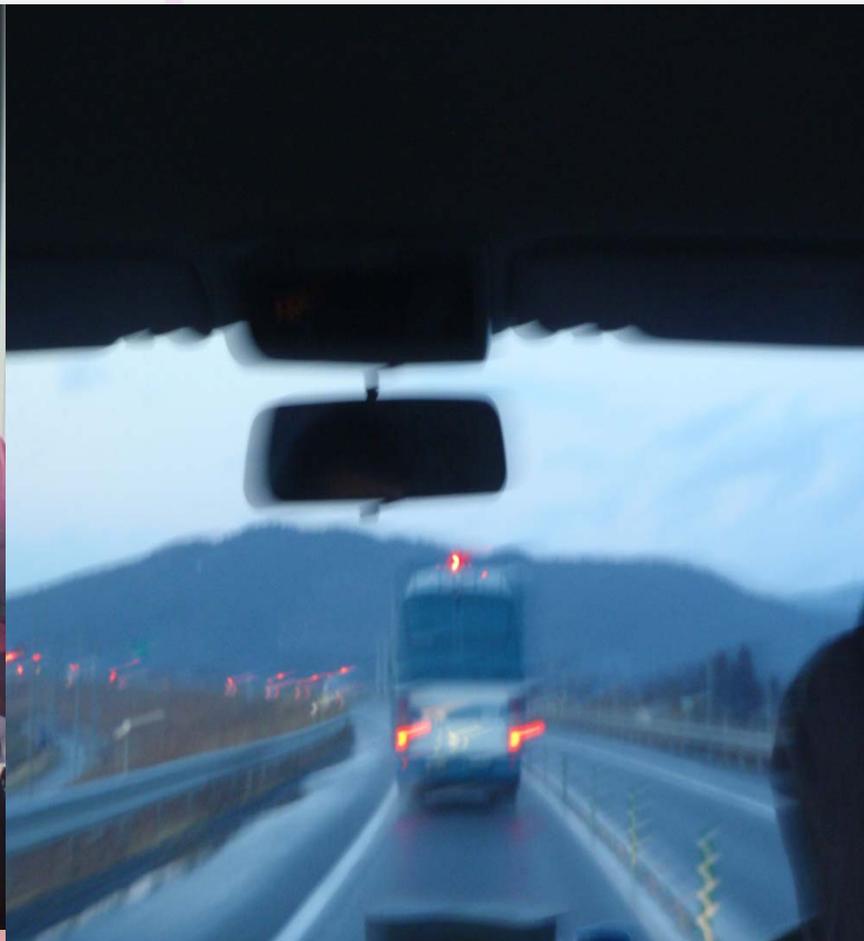
持っている薬の袋が香川労災病院の物だったり、色々なところで全国の労災病院の方々も活動されていることを知ることが出来、被災者の方だけでなく私も不安だらけの中、元気をいただきました。

被災地の状況はテレビで見るより壮絶な光景でした。町や故郷が丸ごとなくなることの意味や、被災者の方が失った大切なものの事を考えると胸がつまる思いです。全国から多種多様な職業の方々が支援に向かっている中、医療スタッフとして活動できたことはとても貴重な体験をすることが出来ました。これから復興に向けて長い時間がかかると思います。私は3日間の活動でしたが、一人でも多くの方を笑顔に、一日でも早く元気を取り戻せる為には、自分たちの出来る支援を途切れることなく続けることがとても大切なことだと思います。

東日本大震災支援活動写真

山口県災害支援ナース

山口県JMAT3月24日出発



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町沿岸部



南三陸町ベイサイドアリーナ前

ベイサイドアリーナ外観



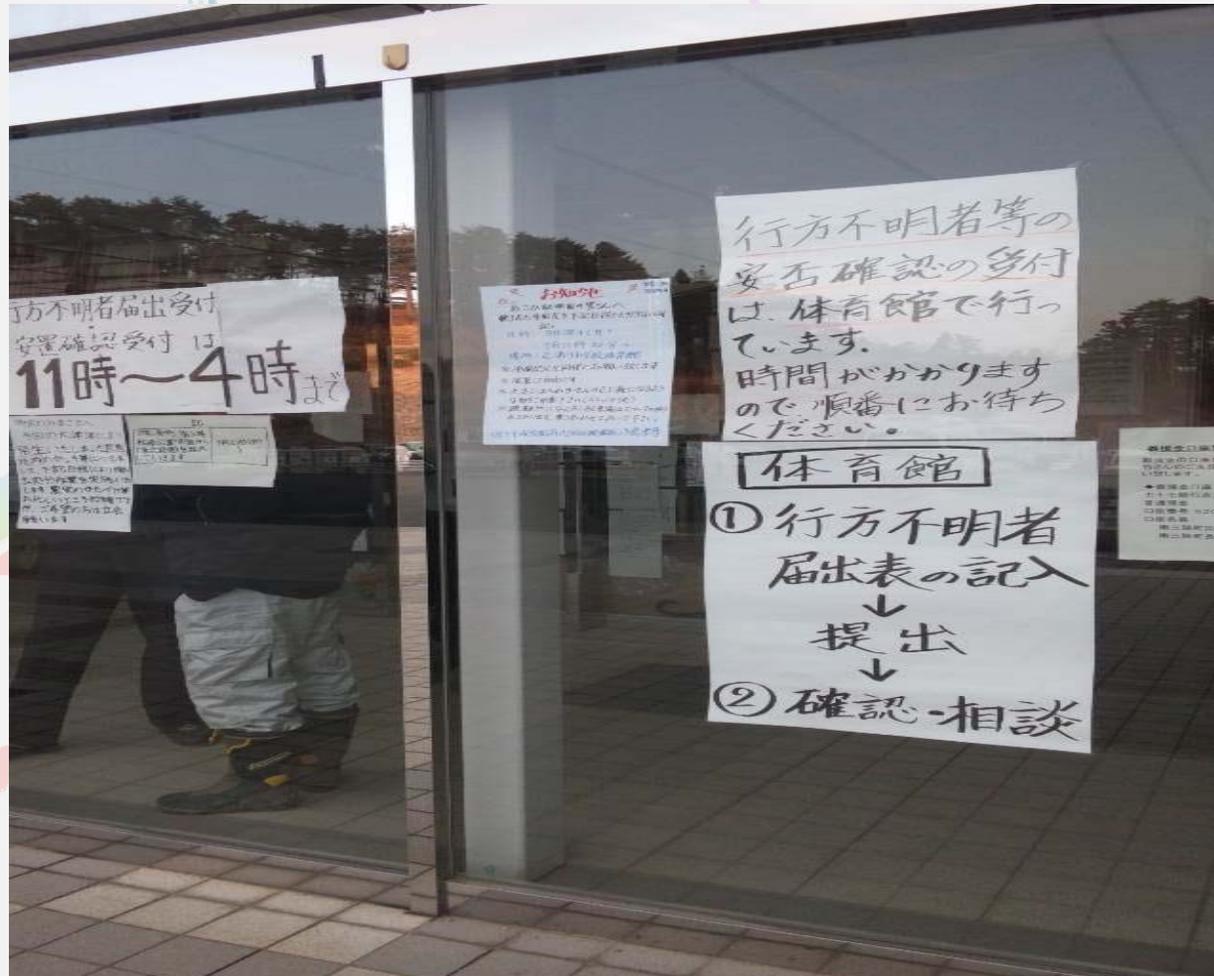
山口JMAT4名



日中のみ避難所前にテレビ車が来る



ベイサイドアリーナ入口



避難所前に待機中の救急車

昼夜問わず救急車が待機



避難所前に待機している自衛隊

湯沸かし隊・この他にも風呂の隊もある。



瓦礫処理の車両



医療班ミーティング用テント



医療班ミーティング風景



医療班ミーティング風景



医療班ミーティング風景



救護所内薬剤部



体育館内救援物資



体育館内救援物資の山



体育館内救援物資の山 払い出しが間に合わない状況



志津川病院スタッフからの申し送り風景



救護所内診療風景



バイタル測定・点滴風景



診療介助風景



カルテラック作製



診療風景



小型のエコー



救護所前の身障者用トイレ

ポータブルトイレ1つを10数人で共有する



被災犬 夕口一



被災犬タロ一



後続の群馬・山梨チーム



仮設トイレ

ビニールシートで仕切り穴が掘ってあるだけの物



仮設トイレ



避難所の屋外テント



体育館内の行方不明者名簿



ベイサイドアリーナ横にある遺体安置所



被災者への炊き出しメニュー



全国からの応援メッセージ



全国からの応援メッセージ

